

研究課題名 社会的劣環境が幼児の体力・運動能力の経年変化ならびに運動習慣に与える影響  
研究代表者 大石 健二

平成 23 年東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)により、東北地方の環境は一変した。岩手県陸前高田市の震災前の住宅の多くは、平屋または二階建ての大きな家、さらに子どもが遊べるような庭がある家であった。しかし震災は、子ども達の身近な遊び場だった自宅を仮設住宅に、自宅周辺の公園は資材置き場へと環境を一変させた。また地方公共団体(自治体)の財政悪化による財政再建団体への移行は、学校の統廃合、さらには市内プールの閉鎖と、子ども達の環境を変えることとなった。震災による環境変化も財政再建団体移行による環境も変化も子どもの身体活動の確保には劣環境への変化と考えられる。そこで本研究は、社会的劣環境が幼児の体力・運動能力の経年変化ならびに運動習慣に与える影響を明らかにすることを目的とした。

本研究対象は、岩手県陸前高田市(被災地域)と北海道夕張市(財政再建団体)とした。また、北海道夕張市は雪国という地域特性もあるため、夕張市の比較対象として北海道函館市も研究対象地域とした。対象者は陸前高田市内の保育園 5 園に通園する幼児、夕張市内の全就学前施設(4 施設)に通園する幼児、函館圏の幼稚園、保育園、認定こども園に通園する幼児とした。本研究対象施設は全 12 施設、1,084 名(延べ人数)であった。体力・運動能力測定項目は、25m 走、テニスボール投げ、立ち幅とび、身長、体重を含む 8 項目とした。また、就学前施設環境(保育士の数など)、家庭環境(就床時刻、きょうだいの有無など)、施設内の活動(運動あそびの頻度、強度など)を調査とした。体力・運動能力の測定結果は、平成 21 年度神奈川県幼児の運動能力測定報告書に記載されている各年齢区分における平均値と標準偏差を用い T スコアを算出した。

陸前高田市の年齢別 T スコアにおいてテニスボール投げ、両足連続飛び越しは、6 区分中 5 区分で 50 を超える結果であった。また、夕張市の年齢別 T スコアにおいてテニスボール投げは、6 区分全てにおいて 50 を超える結果であった。本研究結果から、保護者をはじめ保育士や幼稚園教諭が危惧する環境による体力・運動能力の低下傾向は確認されなかった。しかし、平日の身体活動やきょうだいの有無により群間比較において T スコアの差が確認された。

本研究結果から、震災地域や財政団体という社会環境よりも家庭環境が体力・運動能力に影響を与えていると推察する。そのため、震災地域や財政団体という環境においても幼児の体力・運動能力の向上に対しても家庭環境が重要であると考えられる。